

平成 2 7 年度

第 2 回 温海地域振興懇談会  
会議録（概要）

期 日：平成 2 7 年 9 月 2 9 日（火）  
場 所：鶴岡市温海庁舎 6 階大会議室



## 平成27年度 第2回温海地域振興懇談会 全体会

- 期 日 平成27年9月29日（火） 午後1時30分～分散会終了
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室  
分散会 第1分散会：6階大会議室  
第2分散会：5階501会議室
- 出席委員 奥井厚委員、大井喜助委員、菅原久継委員、佐藤満也委員、佐藤清八郎委員  
若松邦彦委員、小田正宏委員、三浦喜一郎委員、佐藤美代子委員、佐々木真人委員  
佐藤眞紀子委員、本間加知子委員、五十嵐正直委員、 13名
- 欠席委員 粕谷明委員、伊藤貢委員 2名
- 市側出席者 <<温海庁舎>>  
温海支所長 鈴木金右エ門、総務企画課長 三浦市樹、市民福祉課長 石塚みさ  
産業課長 佐藤光治、温海建設事務室長 佐藤伸一  
総務企画課 課長補佐（兼）総務地域振興主査 五十嵐浩一  
総務地域振興専門員 本間由縁  
<<本 所>>  
企画部 地域振興課 地域振興専門員 齋藤芳  
主任 小野寺善紀
- 次 第 1. 開 会  
2. あいさつ  
3. 報 告  
(1) 鶴岡市過疎地域自立促進計画の策定について  
(2) その他  
4. 協 議 ※資料説明後分散会  
(1) 温海地域の重点課題について  
①温海のコミュニティと自治会・公民館のあり方について  
②高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進  
③農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか  
(2) その他  
5. 閉 会

## 1. 開 会

市三浦総務企画課長

ご案内の時間となりました。委員の皆様には何かとお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。ただいまから平成27年度第2回温海地域振興懇談会を開会いたします。

本日の出席状況ですが、伊藤貢委員、粕谷明委員が欠席となっております。

## 2. あいさつ

市三浦総務企画課長

はじめに温海地域振興懇談会 奥井会長よりご挨拶を頂戴いたします。

委員奥井会長

皆様ご苦労様です。朝夕はめっきり寒くなりました。風邪を引いている方も見受けられるようになりましたが、健康には十分ご留意のうえご活躍いただきますようお願いいたします。

今日は地域振興懇談会ということで、温海地域の組織の代表の皆様が日ごろお考えになっていることについて、行政と話し合いをしながら、今後の取組みにつなげていこう、ということで、この後分散会を開催して皆様から活発なご意見を頂戴しようということになっています。各団体の課題などを出していただきながら、今後の地域振興につながればよいと考えます。終了時刻を午後3時30分を目途に考えておりますので、皆様のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

市三浦総務企画課長

ありがとうございました。続きまして温海庁舎鈴木支所長よりごあいさつ申し上げます。

市鈴木支所長

皆さんこんにちは。本日は公私ともに大変お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、皆様方よりは市行政全般に渡りましてご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

9月は各地域で様々なイベントがございまして、先日全国豊かな海づくり大会のプレイベントが開催されております。多くの入場者があり、関係者の皆様に感謝申し上げます。プレイベントの開催により課題も見えたので実行委員会を中心に来年度の9月11日の本番開催に向け準備を進めて参りたいと思っております。また、10月、11月も各地域で様々なイベントが予定されております。委員の皆様からも地域のイベントにご参加いただきますとともに、ご支援いただければ幸いです。

さて、前回の地域振興懇談会におきましては、市の全体的な予算概要や温海地域の今年度の主要事業、地域振興計画などについて説明し、その後に意見交換させていただいたところです。本日は前回説明させていただきました重要課題と取組み状況の中で、コミュニティ、福祉、産業の3つの分野を中

心に絞らせていただき、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。皆様の御意見を踏まえ来年度の地域庁舎の取組みについて、より具体的な方向性を見いだせればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

申し上げるまでもなく、豊かな文化は各地域の特性があってこそであり、これらのことから市ではコンパクトシティをキーワードに、このコンパクトシティ化を念頭にしつつも、地域で暮らしていける生活サービスの確保を目指すこととしております。過疎地域の中心集落の施設等を集約する小さな拠点づくりを進めようとしています。基幹集落に商店や福祉施設などを集めて生活の拠点を作り、周辺集落とつなぐ取組みで、圏域全体で生活基盤の維持を図ることができる利点を生かそうとするものです。今後朝日、温海地域をモデル地区として取り組んでいく予定にしております。

本日資料説明の後2つの分散会に分かれて委員の皆様から活発なご意見をいただくこととしておりますのでよろしくお願いいたします。時節柄体調に十分留意してお過ごしいただきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

市三浦総務企画課長

これより会議の進行につきましては、設置要綱第6条の規定によりまして、会議の議長は会長が行うことになっておりますので、奥井会長より議長をお願いしたいと存じます。奥井会長よろしくお願いいたします。

### 3. 報告

議長

それでは次第に沿いまして、3の報告に入りたいと思います。(1) 鶴岡市過疎地域自立促進計画の策定について、(2) 第1回地域振興懇談会の結果について、続けて事務局より説明をお願いします。

- ・・・ 資料説明(1) 地域振興課 小野寺主任 ・・・
- ・・・ 資料説明(2) 総務企画課 五十嵐補佐 ・・・

議長

ただいまの報告に対してご質問ありましたらお受けしたいと思います。

この件については分散会の中でご意見をいただいてもよろしいと思いますので、進行させていただきます。

4の協議、温海地域の重点課題について各担当課長から説明をお願いします。

#### ※資料説明

- ① 「温海のコミュニティと自治会・公民館の在り方について」  
・・・ 説明者 総務企画課長 三浦市樹 ・・・
- ② 「高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる

地域づくりの推進」

・・・ 説明者 市民福祉課長 石塚みさ ・・・

③ 「農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか」

・・・ 説明者 産業課長 佐藤光治 ・・・

市五十嵐総務企画課課  
長補佐

説明は以上です。分散会の進行ですが、管理職2名と運営担当が同席します。班別については資料をご覧ください。

内容については、分散会に管理職も同席するわけですが、市側とのやり取りというのではなく、委員同士の意見交換を中心にお願いしたいと思います。

議長

分散会のテーマについて説明がありましたが、この時点で確認したいことがありましたらお願いします。

それでは分散会に移ります。

市五十嵐総務企画課課  
長補佐

閉会については各分散会でお願いします。

－ 分散会 －

第1分散会記録 5 P～14 P

第2分散会記録 15 P～29 P

## 平成27年度 第2回温海地域振興懇談会 第1分散会

- 期 日 平成27年9月29日（火） 午後2時20分～午後3時43分
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席委員 奥井厚会長、大井喜助委員、佐藤清八郎委員、小田正宏委員、三浦喜一郎委員、佐藤眞紀子委員、本間加知子委員 7名
- 市側出席者 <<温海庁舎>>  
総務企画課長 三浦市樹、温海建設事務室長 佐藤伸一  
総務地域振興専門員 本間由縁  
<<本 所>>  
地域振興課地域振興 主任 小野寺善紀

**座長** 　　ただ今から分散会を開会したいと思います。まず、先程説明した中で皆さんからのご意見ををお願いします。

**委員** 　　過疎化対策と言われますが、朝日や温海地域は大きな企業がないというのも原因の一つだと思います。それで、若い人達の仕事がないのでどんどん鶴岡の方に出ていってしまう。若いうちは、温海から鶴岡に通う事ができるわけですが、それでも、家庭を持つことによって鶴岡市内の方に住居を持つ。そうすることによって温海地域の人口が流出してしまう傾向があるので、若い人達が働く大きい企業があれば、ここは新潟からも近いので新潟からも働く人が来るようになるので、なんとか大きい企業を誘致していただければ過疎化対策になるのではないかと思います。

**座長** 　　今、企業誘致という事がありましたが、何かあればお願いします。

**委員** 　　一番私達が望んでいるのは企業誘致だと思います。地元で働く場所がないという事は、本当に大きな問題だと思うのです。

**委員** 　　幸いにも高速道路も延びているわけだし、なんとか鶴岡市からも温海の方に企業誘致ということを強くお願いしたいと思います。

**委員** 　　先程「しゃりん」を新しく鼠ヶ関インターの方に、という話が出ましたが、今の「しゃりん」をなくして新しい「しゃりん」をつくるという事ですか。

**市**佐藤建設事務 　　まだ結論は出ていません。ただ、今のままでいくと交通量が3分の1から2分の1くらいになると予測されている。ですから、現在の場所では今の形態は保て

ないと予想されることから、役割分担して2つ残すかあるいは、高速のインターチェンジに高速道と一般道の両方から入れるようにして新しく一つにするか、といったことを今後決めていきたいと思います。

委員

新たに鼠ケ関インターチェンジ周辺に整備するとすれば従業員の雇用もできるでしょうし、高速道の出入り口ともなりますので、周辺に地元の人が勤められるような、遠くに行かなくてもいいような働く場所を考えていただければと思います。

委員

今の意見に対しまして、「しゃりん」がどのように整備されるのか、その辺がはっきりしないと鼠ケ関地域としましてもどのように対応したよいか、「しゃりん」を活かしていったらいいのか、その辺がまだ話も聞こえてこないものですから、地域自体としても動きがとれないという状況です。

委員

人を多く呼び込もうと考えたときに、今の「しゃりん」では手狭ではないのでしょうか。

委員

若い人達からも話を聞いていますが、漁師の人達も自分達で店を出したいという気持ちあるみたいです。自分達で魚を焼いて売ったりしたいという思いをもっているようですので、今後どのようにしたらいいのか話合いになっていくとは思いますが、サービスエリアだけが売れて鼠ケ関の中にお客さんが入って来てもらえないことではなく、鼠ケ関集落のお店も活かさないことにはだめなんじゃないかという思いはあります。

委員

雇用を多くということになると、今のままの規模ではとても無理だと思うし、最近ですけれども、遠くから来たお客さんの話ですが、「しゃりん」に寄ってきたけれども買いたいような商品はなかった、あまり魅力のあるものがなかったので買ってこなかった、というお話もありました。新しく移転するのであれば、もう少し大がかりなもので、お客さんが魅力を感じて、買いたいと思わせるような形態にもっていかないとなりません。せっかくサービスエリアができるのであれば、あつみ温泉の商品を多く取り揃えたり、鼠ケ関には新鮮な魚介類も多いわけですので、そういうものをメインにして集客を図るような感じにしてはと思いますがいかがでしょうか。

委員

今、山形県漁協でも魚を売るのに、内陸の方であまり消費されていないものから、色々な手を使って内陸に売りましようと考えながらやっていますが、た

だ一方で理事の中には、向こうに魚をもっていくのも一つだけれども、内陸のお客さんから来てもらって庄内の魚を食べてもらい、おいしいと思っていただくことでリピーターになってもらった方がいいのではないかという考えもあります。

委員

庄内ブランドが東京方面にも出ているようですが。

委員

庄内ブランドということでは「おばこさわら」が出てきました。これは漁協でブランドを作ったのではなくて、漁師さんが自分達で作りました。築地まで行ってどういうやり方をすればいいかということで研究してブランドを作った訳ですが、だんだん加茂水族館でも料理を出すようになって名前が売れてきましたが、温海には一つのメインになるようなものがないので、どうにかして温海にお客さんが来てお金を落としてもらおう方向にもっていかないといけないのではないのでしょうか。

企業誘致するにしても実際には温海の中には敷地がないし、鼠ヶ関には少しあるかもませんが、その他の地域には広い土地がないので、地元のものを利用するという考え方がいいのではないのでしょうか。

委員

雇用を生むにはやはり工場が必要だと思います。何百人単位という雇用がないと効果はないと思います。

委員

あつみ温泉をどうやって観光地としてもっていくかという基本が伴っていないと思います。なぜかという、高速道路ができて周りがどんどん変わっていて、私は345号線の温海川集落で「キラリ」という農家レストランをやって、地元の本物の栃の実を使って勝負して好評をいただいています。しかし、高速道路の開通とともに車の量が180度変わってしまいました。日本の中でもこのような綺麗な紅葉はないと思っていますが誰も来ません。なぜかという、観光客が高速道路を利用してあつみ温泉に来るからです。今後さらに鼠ヶ関まで高速道路が開通して、何もしなければ誰も来なくなります。これから温海を立て直していくためには観光協会の活動が鍵になります。あつみ温泉は日中誰も歩いていません。鶴岡市には温泉が3つあります。今湯野浜には加茂水族館があることでお客さんが入っています。湯田川も孟宗や梅を使って頑張っていますが、あつみ温泉は何をしているのか。バラ園に年を取った人が車で行けないなど、こんな事を言っている時代ではない。もっと自分たちの足で地域の資源を探してPRしないとだめです。私は温海川の山中に1ヘクタールのカタクリ園を自費で整備しました。東北では他にないと言われています。その他20アールのミズバショウ園の整備を検討しています。そういった地域の資源を使って観光PRをしていかないとだ

めです。今はねむの木の鉢を作ろうとしています。これは皇后陛下も興味を持っていることもあり、来年の海づくり大会に飾ろうということで県なども来ていますが、なかなか難しいところもあり今研究中です。このようなアイデアを出してやってみることが大切です。それとミツマタの花を植えてはどうかと思っています。春先には黄色や紫のきれいな花が咲きます。これは1万円札の原料となるものですが、そのミツマタ園を作るとか、温海川ダム周辺にねむの木が多く自生しており夏に花が咲きますが、現在は弦が絡んでいてだめなので手入れしないとだめだし、奥温海湖の看板も飛んでしまっているし、旅館も観光協会ももっと一生懸命になって観光資源を探すと整備するとかしないとだめだと思います。山間部も関川にはしな織があるし、温海川にはカタクリ園やミズバショウ園、金鉱跡に四の滝などがあり、これからの紅葉も大変きれいなのですが1台も観光バスが通らなくなっている。今は日沿道を早く開通させるとか、鼠ヶ関インターチェンジの活用とかという話になっていますが、地域の資源を使ってもっと活気を出すための工夫が必要だと思いますし、企業誘致は困難だと私は思います。

温海かぶのブランド化について、昭和30年代頃の温海かぶを作らないとだめだと思います。今は金肥もどんどん使われているし連作もされていて、皮は厚くて、という状況では本当の温海かぶとは言えないし、他の地域でもかぶが多く栽培されている状況にあります。そこで、来年から温海地域の森林も老化していることから、年間5～10ヘクタールを皆伐して、その跡で焼畑をして温海かぶを栽培する取組みを行います。温海かぶの栽培で一番大変なのは焼畑です。今年五十川で試験的に柵を作ってやってみましたがこれは成功しました。その後の収穫したものをどうするかということになりますが、廃校になった福栄小学校の校舎を使って、駐車場に雪室を作って、塩漬けしない本物の温海かぶを作って販売する、かぶを収穫した後は植林して下刈りすることでわらびも収穫できるので、年間通じて5人くらいの雇用ができるのではないかと思います。

今福の里に3人地域おこし協力隊が来ています。大変いいことだと思いますが、協力隊員の指導をきちんとしてほしいと思います。地域の中での生活や身なり、行動など、住民と一緒に地域づくりができるよう市としても教育をしてほしいと思います。

いろいろ課題はありますが、地域全体で観光を考えていかないとだめだと思います。日沿道の全線開通後もよく考えてもらいたい。鶴岡～温海間が開通してから345号線は観光バスが1台も入ってこなくなっています。そのことが345号線沿線の集落も活気をなくしており、それが人口の流出にもつながっていると思います。

委員

せっかく良いものがあるのに一番足りないものは宣伝効果、やはりPR活動が

大事だろうと思います。

委員

今の水芭蕉やカタクリの話を聞きましたが、パンフレットを作るなどして観光協会の方でPRすると思います。予算の関係もあるということで職員も1人減りましたが、もっと観光協会が中心となってあつみ温泉、商店街等と連携してPRを強化してほしいと思います。

委員

観光協会の支部が1本化にならなければ駄目なのではないか。その地域だけよくするのはなくて、温海地域内全体をよくしていかなければいけないのではないのでしょうか。

委員

それが逆に今は鼠ヶ関が一生懸命なものですから、鼠ヶ関では抜きたいという話もあります。それぞれ分かれてやった方がいいのではないかという話もあるのです。

委員

それでも、私達からみれば鼠ヶ関観光協会ももっと力を入れてもいいのではないかと思う部分があるわけです。

委員

今観光協会の鼠ヶ関支部方は一生懸命だと思います。  
温泉は9月から観光協会を日曜日に閉めたこともあって、うちの店にもどこか旅館空いている所はないですかという問合せがありました。また、湯けむり女子会の「湯ったりや」は入口の所にあり土日が開いているので、旅館や観光案内も行ってありますが、日曜、祝日には観光協会が開いているべきだと思います。

委員

鼠ヶ関では橋掛地区に漁協、蓬莱塾が協力して子供たちと植林をして展望台を作り、森林組合と蓬莱塾で下刈りなどをして管理していますが、これは素晴らしい取り組みだと思います。あつみ温泉もっとみんなで力を合わせて頑張っていかなければならないと思います。

委員

お客さんから、どこか他に見る所はありませんかと聞かれます。口で説明してもよく分からないと思いますし、写真やパンフレットがあることによって見せることができる。そうするとお客さんもおのずと足が向く。そういうのが観光協会の役割だと思うし、パンフレットがあることによって地域の人達もお客さんに対しての宣伝ができると思います。

委員

朝市広場のところに温海の自慢できるものの写真を撮ってお客さんが見て歩い

たりできるようにしたらよいのではないのでしょうか。せっかく空き店舗があるのにもったいない。予算がなくてもアイデア次第でできることはたくさんあります。

委員

空き店舗を利用してお客さんを呼び込めば、旅館もよくなるだろうし、色々なものを利用していけばよいと思います。

委員

温海は観光におけるまちおこしが一番だと思います。今の話に異論はないしそのとおりだと思います。しかし、温海には山林もあるし、山林資源を有効に活用して産業振興に結び付けるような策はないものですか。

委員

その問題は今検討中ですが、来年度から予算がついて、木が年を取ってきたので山林を若返らせていこうという取り組みを行います。それとかぶのブランド化を組み合わせることで年間5人くらいの雇用を生み出すことができると考えています。木材を売りたいという方は多くいますが、伐採した後には植林をしていかなければいけないので、森林組合でも計画的に取り組むということで実験なども行っています。

委員

企業誘致が簡単にできれば一番手っ取り早いし理想だけでも、企業も立地条件があるわけだから実際誘致してくるのはなかなか難しい。せめて地域の中で地元の特産物の活用、いかに知恵を働かせながら自分たちなりにできるものはないかと考えざるを得ないのではないかと。我々、一個人では簡単にできるものではないですが。

委員

山五十川で歌舞伎、能をいまだに守っているのは素晴らしいことだと思うし、あれを見習えばたいがい観光もできないことはないのではないと思う。あれだけのものをまとめて継続していることは素晴らしいことだと思います。

委員

観光事業にも古典芸能を利用してもらうのは大変ありがたいことだと思うけれども、それ相当の苦労はあるわけで、観光協会あたりが活用する団体の一つだと思いますが、その辺も十分考慮しながら活用策を考えてもらわないとなかなか簡単に引き受けられるものでもないと思います。

委員

鼠ヶ関の方で海のイベントを一生懸命にやっている。そのついでにしな織を見るとか栃餅を買っていくとかということがあればいいと思いますし、バラ園まつりなど、あつみ温泉がもっと活気づいてほしいと思います。

委員

最初に各課から出した、例えば総務企画課であればコミュニティづくりと関連して自治会とか地区自治会、公民館のあり方とか今後の運営面で色々厳しくなってきたのですが、事業連携しながら効果的な運営ができないかどうか、そのへん色々な意見があればお願いします。あと、福祉の方からも高齢者の買い物や医者に行く時の足のことや雪の心配とか出てきているので話題は豊富で産業だけではなくてどちらにいてもいいのですが。

委員

委員になったこと自体が高齢者を代表する形で意見を聞いたり、反映させてもらう趣旨だと思うので申し上げたいと思います。

高齢者福祉の中に健康づくりもあるわけですが、今、国自体も寿命が世界一と言われるほど伸びてきていること、健康で長生きでなければだめなことはみなさんもお承知のとおりで、健康寿命をいかに長くしていくかがこれから特に高齢化が増えている中で重要な事項ではないと言われていて、私も最もだと思っています。その一つとして個人的になりますが、私もグラウンド・ゴルフの愛好者の一人ですが、本当に高齢者向きのスポーツです。ちょうどいい程度に歩くし、あまり激しくもなく、歳を取った方でもできるスポーツです。日本全体のグラウンド・ゴルフ協会でも国の意向を受けて反映させて健康寿命を伸ばしていくためにグラウンド・ゴルフを推進していきたいといわれています。それに関連して、温海にも友愛の森広場を作ってもらって我々も色々な練習、あるいは大会で利用させてもらい本当にありがたいことです。今現在、協会に登録している人は135人位ですが、実際的人数はその倍以上はいると思うのです。それだけの人が色々楽しみながら仲間づくりをして健康づくりに役立っていることを考えると、あそこのグラウンドは前から比べればよくなりましたが、これから田川、庄内地区の大会も各旧村町単位でまわりながら事業を実施する状況が非常に多くなっているので、グラウンド・ゴルフ場の拡張と駐車場の確保ができればグラウンド・ゴルフの運営と高齢者の健康づくりにも役立つと思うので、要望を含めて申し上げます。

委員

高齢者のひとり暮らしの食事ですが、ここ温泉地域は色々な所で配達してくれるようではありますが、山間部の方だと今配達してくれるところとして7号線沿いのコンビニがありましたが、10月12日で閉店してしまいます。そうすると小国の方や山間部への弁当の配達ができなくなるので、あちこち弁当を配達しているところ、大手の会社にお問い合わせしたら、温泉ならともかく山間部の方には行っていないと断られたという話も聞くので、なんとか一人暮らしの人達が食事できるように配達が行けるような仕組みを考えていただけないかと思います。

市三浦総務企画  
課長

最近ではスーパーなどでも食材配達を行っているところもありますが、弁当となると専門業者になります。個数にもよりますが7号から345号経由で配達するというのも可能だと思われませんが。

座長

閉店するコンビニ周辺の集落でも問題はあります。一人暮らしや漁業者の人が弁当を買っていて、特に一人暮らしの漁師さんが漁に出る前に弁当を買っていたようです。地元の人がよく利用しています。

みなさんから活発なご意見をいただきました。これらを伝えていくにはどうしたらいいかということが一番大事ではないかと思えます。私も自治会長をして長くなりますが、市の総合交付金で自治会では助成金をもらっていますが、各種団体が解散したり廃止しています。老人クラブを辞めていとか婦人会を脱退する、そういうものを育てるには人づくりではないかと思えます。自治会としても、団体がなくなると何の事業をしてもうまくいかない。各種団体に総合交付金の枠を設けて長く老人クラブを継続できるような方法がないかという事を常に感じていました。うちの方でも1年間老人クラブを会長が体調を悪くして休んでいました。それで各行事なりお願いするときに会長さんが動くことができないので、今自治会でも人が必要であれば婦人会にお願いして各事業をやっています。総合交付金の中からも助成金が出ているはずなので、そういうものも強弱をつけて来年以降も活用すれば、地域活性化に繋がるのではないかと考えていますので、まずみなさんからそういう意見がありましたのでよろしくお願ひしたいと思います。

先日、棚田の稲刈り体験をしたんですが、農協女性部6人の方が朝3時から起きておにぎり60個を作って我々に提供してくれました。そういう団体があると、これからも事業が活性化していくのではないかと感じました。

委員

今、旧温海地区27集落中、老人クラブがある自治会が15に留まっています。半分しか老人クラブがない状態です。それにはいろいろ事情があるのですが、一つは役員のみ手がない。婦人会の団体も役員のみ手なくて婦人会がなくなっている。老人クラブも同じような状況がある。我々は団体の扱いはある程度仕事として分かれていて、多少慣れてきたので事務的な苦労はあまりないのです。ところが、事務をしていない方は事務的な苦労が非常に多い。そういうものをなるべく少なくしてもらおうのがまず一つ。我々も団体を組織している幹部のやり方にも問題があるのかもしれないけれども、今、補助金の話が出ましたが、市からもそれ相当の補助金をもらっているのです。その補助金の裏付けの為に実績報告的なものを求められる。それは当たり前なことだけれども、なかなか高齢者にとっては非常に苦痛になっているような事がありますので、老人クラブ活動は仲間作りや健康づくりにもなりますし、医療費の削減にも大きく貢献していると思ひ

ますので、補助金も減らしてもらいたくないし、事務手数もなるべく簡略化してもらいたいというのが一つです。老人クラブのないところにはミニデイサービスというものがあり、全集落を対象にしていますが、ミニデイサービスのやっていることと老人クラブのやっていることがほとんど変わりありません。老人クラブは会員を対象にしている、ミニデイサービスは自治会主体でやっているのもう少しミニデイサービスと老人クラブ事業を整理して見直しをしてもらいたいです。

委員

老人クラブというといかにも年寄りの集まりという感じがして、響きが悪いのではないかと。別の名前を考えて、ミニデイサービスと一緒にして活動するようにしてはどうか。

委員

単位の老人クラブであればどのような名前を付けてもいいわけですが、全国や県、市でも組織があるわけなので、その中で活動しようとすると同じ名前を使わなければならないことがあります。

委員

鼠ヶ関では、老人クラブの活動は地域内で活動するのはいいけれども、温海で活動するのは億劫だという人も多いです。ミニデイサービスと老人クラブの違いは、ミニデイサービスは健康保険事業の対象になり、健康保険給付を少なくするためにミニデイサービスをやっているということでした。その方から助成金も出る。老人クラブと同じようなことをしているけれども、一緒にしてもらっては困るという話がきています。鼠ヶ関の場合は、自治会は一切ミニデイサービスにはタッチしていません。最初からそのようにしています。

座長

予定された時間になりました。皆さんから活発な発言をいただきました。今日の反省として分散会の一つにまとめて観光の代表の方々と真剣に次回は話をしてもらえれば有意義な分散会になるのかなと思います。

委員

話されたことは一つずつ実行していかなければならない。すべてが実行できるわけではないが、みんなが力を合わせて取り組むことが大切だと思います。

市三浦総務企画  
課長

最後に、先ほど地域おこし協力隊の話がありましたが、今年5月から入ってきて時間がたっていない中で、やっぱり指導教育が行き届かない点があることは事実ですので、今後常識的なことだとか、この辺の土地の習慣に合わないことだとか、まず人間としても成長してもらわないと困りますので、もし何か気づきがありましたら今後とも皆さんからも助言を頂きたいと思います。庁舎としても総務

企画課と産業課で連携を取ってやっている訳ですけども、行き届かない面はあるかと思しますのでよろしくをお願いします。

座長

予定時間が過ぎましたが、今日本所から地域振興課の小野寺さんが来ているので感想をお願いします。

市小野寺主任

私は本所に勤務していますが、採用が朝日で今も朝日に暮らしているので山一つ越えた所の端ということで、地域性とか近いところでもなかなか分からないこともあったのですが、今日問題になっている事とか、これから地域としてどういうふうな方向で進んでいった方がいいのか、様々な課題があるのだなと感じたところです。朝日も当然観光であるとか高齢者の暮らしとか、協力隊も入っているわけですけども、色んな課題も共通なところもあったりするわけですけども、先程から皆さんがおっしゃった通り、温海の観光とか温泉とか有効な手段があるのではないかと考えています。私達も温海に来る機会があれば、いいなと思いますし、温海の人達ももっと他の所に行ったり、老人クラブの方々のグラウンド・ゴルフをこっちでしたりあっちでしてみたりとか、そういうのもいいのではないかと聞きながら感想になりますけれども考えていました。どうもありがとうございました。

座長

これで分散会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

## 平成27年度 第2回温海地域振興懇談会 第2分散会

- 期 日 平成27年9月29日（火） 午後2時18分～午後3時35分
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席委員 佐藤満也副会長、菅原久継委員、若松邦彦委員、佐藤美代子委員、佐々木真人委員、五十嵐正直委員、 6名
- 市側出席者
- 《温海庁舎》
- 市民福祉課長 石塚みさ 産業課長 佐藤光治、  
    総務企画課課長補佐（兼）総務地域振興主査 五十嵐浩一
- 《本 所》
- 地域振興課 地域振興専門員 齋藤芳

**市**五十嵐補佐 第2分散会を始めさせていただきます。座長に副会長の佐藤満也さんをお願いしてあります。説明のあった3つのテーマごとをお願いしたいと思いますが、ざっくりばらんな意見交換ということで進めていただければと思います。

**座長** これからの温海のコミュニティと、これからの自治会、公民館のあり方についてどうしていったらいいのか。先ほどお話がありましたとおり、特に大変な自治会組織がいっぱいあるわけですし、あるいは公民館においてはその維持管理だけでも大変なものに直面しています。これは先程あったように人口減少を含めて会費の徴収が大変な時代になっています。温泉自治会では、以前はどこかで下げればどこかで上げてバランスをとってきたわけですが、ここ10年近く会費をいったん下げたら上げられない状態がずっと続いております。そして尚且つ人口が減っていくというようなことから、これからの自治会運営、あるいは公民館運営はかなり厳しいものになるのではないのでしょうか。

ここは27集落あり、その中でも4つの地区に分かれて色々やっていますが、これも大変厳しい状態が続いています。今、温海の人口は2千人ほど減少しています。市町村合併してから1万人から8千人ですから、20%の減少です。この合併した5つの地域では一番減少率が高いという状況がございます。そのような現状をふまえながら自治会、公民館のあり方についてご意見があればよろしくをお願いします。

**委員** 自治会経験者としてもそうですが、問題を抱えながらもずっと今までの流れに沿った形でやられてきた経過もあります。内容的にはこんなことでいいのかなということもあったようですし、現状が悪くなればなったなりに、例えば役員の手当てを下げるとか、行事を減らすとか、そういう形で維持管理をしてきたという経過があります。今日この会ですと、昔の話を持ち出してあれこれ言ってもどうしても後ろ向きになってしまいますので、前向きにこれから全面的に自治会のあり方、いわゆ

るコミュニティも含めてですが、前向きな話ができないかといつも思っていました。ただ、それじゃあ何と言われると首をかしげる部分も結構ありますので、皆さんと共に前向きな話をしていければと思いますのでよろしくお願ひします。

座長

実際自治会長をされている委員もおりますが、現状的な悩み事があると思うのですけれどもいかがでしょうか。

委員

あまりに多くありすぎて何を話せばいいかわかりませんが、簡単に言うと前例踏襲という部分がかかなり強いものですから、それを一旦ぶち破らないとなかなか新たな展開というのは望まれない。不満がある人、例えば転出する人で、自治会費が高くてというのは必ず出てきます。確かに高いです。ただ、高い要因をみると、市街地では絶対ないだろうけど財産を持っている。あの財産が今は貧乏財産になってしまっている。うちでいうと税金を払うために一戸当たり7千円かかるのです。固定資産税を払わないような方法を在任中にやろうと思って、庄内支庁に行ってかけあっています。40、50年前に先輩の方々が、将来杉の値段もよくなるだろうということで、自治会費もとらなくてもいいように何百町歩も植えたのです。植えたところが今、出すと赤字になるという状況で売れないものですから、持っているだけの財産になってしまいました。固定資産税だけで30何万かかるのだから、維持するために50世帯で税金を払うために7千円位かかるのです。その為に納めているのだから今、生産森林組合の会議の中でなんとかしてくれという話をし、て、庄内支庁と相談をしているところです。そういう部分がみんな自治会費だと思っているので、これは別だという話を細かにしていかないとなかなか分からない。具体的にはこれから検討委員会を立ち上げ大鉦を振るうということをおもっています。よく言われるのは市街地の方では自治会費が月500円と話をよく聞くわけですが、やらなくてもいいものはやらない、という格好でやってみてはどうか。今、自治会で収入が上がるものが何かないかと思つて考へているわけですが、なかなかないので事業を減らすしかないのかなと。いくら宣伝しても人が集まつてこないようなものは終わったと、別に要望がないものについては無理やり人集めをしてやる必要がないのではないか。市の社会教育の部分も含めて無理やり集めてやらせなくても、やりたくないものはしなくてもいいのではないか。運動会などがある時は会費をもらわないで、飲食費は全部自治会費から出すのでどうしても高くなります。なので、反省会は会費をもらつてやれば集めなくてもいいのではないか。まず今年、自治会費を下げ方法というものを考へていきたいと思つています。当面は自治会運営では自治会費、その部分に手をつけていきたいと思つています。

委員

温海温泉自治会ですけど、会費について毎年、家族が入院しているから、今収入

のある人が誰もいないから自治会費を下げてくださいという形で来たりするのですが、下がる方向の話はあるのですが、例えば高校、大学を卒業したお子様が企業に就職して家庭で収入が増えるとその人達は本来は自治会費が上がるはずなのですが、その時は誰も何も言わないという事で、下がることばかりなのです。それから、私は鶴岡市内に住所がありますので、そこと比べると全然違いますが、何が違うかというとはやはり、やる事とやらない事が全く違うのです。鶴岡市内の自治会になるとほとんど何もしいです。特に大きな違いはやっぱり消防団です。消防団は鶴岡市内では扱っていません。それから、収入が少ない、助成金が少ないと思ったのが電気料金ですね。鶴岡旧市内の町内会では電気代の助成金をご存じだと思いますけど、90%や95%ですが、温泉自治会では95%はもらっていません。そこは違いがあるというふうに思いました。ただ、それだけを言ってもしょうがないですけれども、ただこういう所には継承しなければならない伝統芸能もありますし、温泉で言えば入浴施設が3か所あり、その管理もやっていますし、鶴岡旧市内にはない色々やらなければいけないこともあります。やることやっての会費なので、ある程度就職した人が自宅から通っているという人は基本的な算出方法があるようなので、それと照らし合わせると自治会費は上げなければいけない状況だったので、是非そのへんは下がる人はしょうがないけれども上げられる人は上げていただきたいですね。

委員

温海温泉や鼠ヶ関は特殊で、温海温泉は2千万を超える莫大な予算がありますけれども、今言った温泉共同浴場、街灯も相当経費がかかりますし、自治会費を下げられないかというような話がありますけれども、一番上のところを崩していくと全部下まで変わっていくので、その辺が危惧されているところです。個人的に観光協会にいて多くのイベントに携わってきましたが、自治会に来て思うのは自治会でもイベントが増えてきているのです。観光まで頑張らないといけないのか、極端に言えば、旅館組合が減ってきている中で、自治会のやる仕事なのか、というところが悩んでいる一番大きいところです。

委員

敬老会についてですが、参加者も少なくなってきました。敬老会の対象者でも老人ではないという意識があるようです。集まってご馳走を食べるということだけではなく、やり方を変えていく必要があるのではないのでしょうか。

座長

温海温泉では以前は70歳だったが1歳ずつ上げていって今は75歳以上になっていますが、今年の参加者は何人位ですか。

委員

今年は50数人で、以前は100人を超える人が集まっていましたが、年々少な

くなってきています。

**座長** 会費はとらないということですか。

**委員** 市からの助成もあるのでとっていません。

**委員** 市からの助成は1,000円ちょっとだと思いますが間に合いますか。

**市**石塚市民福祉 4月1日現在の数えで75歳以上の方に一人1,100円助成しています。

課長

**委員** 藤島、櫛引は2,000円から3,000円近くもらっているということですが。

**市**石塚市民福祉 藤島が2,500円出ています。敬老会に対する考え方があって、市がお祝いしてあげなくてはいけないという考え方でやっているようなところもあるのですが、温海は旧鶴岡と同じような立場でお祝いしてあげて、地元の自治会のやり方で実施してもらって、それに対する支援ということで同じ1,100円になっています。

課長

**委員** その辺も含めて合併10周年を迎えて全部画一的な方向がうたわれていますが、例えば、朝日、温海が過疎だというのだけれども、全部画一的な政策、金太郎飴みたいにしたら過疎化対策なんて全然進んでこない。そのいい例が、情報伝達システム、うちの方だと各戸に全集落に有線放送があるわけです。それが古くなってきている部分もあり、無線に切り替えているところもあるし、有線放送が壊れた時に変わらず補助を出してほしいという話の中で、どちらもだめだという話になりつつあります。せっかく過疎の法律もあって、財源もあるのだから地域ごとに多少変わった政策も当然必要ではないかと思う。まして何十年来有線放送で各行政の部分も含めて伝達事項としてやってきたのに、今の外にある防災無線だけで全部間に合わせようというのが、少しおかしいのではないかと。過疎の財源をうまく使いながら、少し独自性があるような政策というのをみんなで考えて打ち出してくれというそういう方向にもっていけないのかなと。そういう事を考える会議にしてもらえないでしょうか。

**委員** 私も同意見で今日、全体会で話そうと思ったけれども、今こういう資料が庁舎からきて、有線放送の戸別の回収が10月、11月に始まり、防災無線もデジタルに変えますというものがきて、実際温海温泉に4つの無線塔があるけれども、一番近いのは朝日屋旅館の裏にあって直線で100m位しかないのに、裏手にいて障子が閉まっていると何を言っているのか全く分かりません。これに災害時に雨が降った

らほとんど内容は聞き取れないだろうと。昔、新潟の荒川が氾濫した時に、そこは防災無線ではなく、車で市が周知して周ったけれども、雨が降って全然何も聞こえなくてそのうちに川が氾濫してしまいました。今回の常総市もそのようなことだったようです。ハザードマップのところでも言おうと思いましたが、市で作ったハザードマップで、庁舎が水没するとわかっていて、電源も落ちて電話も使えない、本部機能が何もなさなかったということです。ここも津波の時はそういう可能性があるのではないか、という話も出そうと思ったけれども、そういうところで個々にある無線機を活用できないか。自治会長が動いているようですが、本当に雨が降ったとき屋外塔のものだけでは周知できないだろうと思います。その辺これからどう考えていくのか、線の張り替えに2,000万、これにお金をかけるのだったら防災無線の方に移したいけれども、その辺の手立てを考えていかないと、全集落、海岸線特に有線の線は相当早くやられるようです。

鼠ヶ関で見積りを取ったら2,000万かかるそうです。温海温泉でも以前半分の見積りで750万でしたので今全部やると2,000万はかかると思います。

座長

他地域で無線を導入したということですが。市の助成はどうだったのか。

委員

由良で導入しています。市からの助成はありませんでした。

委員

お金のあるところはそれでいいと思います。鍋倉でも無線にしたと聞いている。

座長

そういった面では是非補助制度が必要ではないかと思います。

委員

現在デジタルで市が流す情報を各集落の有線放送でつないで各家庭に流すことで準備されています。

委員

村上市では各戸にテレビ電話のようなシステムが設置されていて、時報なども流されています。

委員

田川あたりは何もないらしいので、田川の会長に会議の案内などどうしているか聞いてみました。各団体がコミセンから文書を作ってもらって配っていたり、電話をかけたりにしているそうです。

委員

防災無線は聞こえない。何を話しているか分からない。

委員

本当に聞かせるつもりなら各戸に入れなければ効果はない。

委員

今、防災無線と農協は各農家組合員の家には全部入っているわけで、それと連動させると農家の部分は節約になると思います。

委員

その受信機も回収されて農協からの放送もできなくなりました。町の設備に農協からも放送できるようにしたもののなので、農協のものもなくなります。

市 総務企画課五  
十嵐課長補佐

デジタル化になれば、アナログの電波自体が出なくなるので、現在の受信機では受信しなくなります。有線放送は各自治会のものなので、個別に放送はできます。

座長

それに対して維持管理費がかかる。線の張り替えに2,000万もかかるとなると、自治会としたって見直しもあるわけだし、自治会で色んな悩みがあることを一つ知ってもらいたいと思います。今の文化会館に77億もかかっている。もう少しシンプルなものを作ってお金をかからないようにしてもらえれば一番良かったのですが。結局維持管理についても我々も鶴岡市になったわけだから、特例債といっても同じ借金であるわけだし、市の真ん中だからといって無駄なものは造らないようによろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、高齢者が住み慣れた地域に暮らし続ける地域づくりの推進という事で、我々は温海温泉に住んでいて、良いところだと思って住んでいるわけですが、なかなか若い人達はその部分までいっていない。鶴岡市内に移住する方もいるわけです。かといって鶴岡旧市内の人口が増えているかというところでもない部分で、人口が減っている中で全体的な悩みもあるわけですし、先程敬老会の話も出たわけですが、私どもの温海温泉の方にも老人クラブがあって毎月1回は定例会をやっているわけですが、その中でも老人クラブに入らない人もいますし、お互いにコミュニケーションをとるにはいいですが、本当に地域に住んでいて良かったと思ってくれればいいのですが、この辺はどうですか。

委員

7ページ(1)の2番目に介護を必要としない健康管理という事で、女性の平均寿命が88歳とありますが、健康寿命が76歳で、12歳ギャップがある。健康管理を平均寿命近くまでやれば、介護、医療関係が改善していくのではないかと。そう言った中で、体育協会にゲートボールとグラウンド・ゴルフがあって、ゲートボールは十何年前から人が少なくなって今は50人ちょっと位、逆にグラウンド・ゴルフは人数が増えていて盛んなわけですが、グラウンドに出て活動することがいいのかなということで、もっともっと奨励していかなければならないし、ゲートボールの人数が少なくなっているあたりもどうしてか、ある程度分かりきったこともあるわけですが、各集落にもみんなが集まって活動する場もあるわけなので、輪

を広げていって健康な高齢者をつくっていくのが一番だと思います。世界一の平均寿命なわけだから、それに健康がついていかないとなかなか大変なのかなと思います。家族の介護が始まると本当に大変ですので、高齢になるまで健康でいてもらう手立てを考えていかないといけない、集落でも同じかなと思います。

座長

今、グラウンド・ゴルフの件がありましたが、藤島、櫛引には立派な施設があります。温海にもあるといえはるけれども、芝の状態などもあまりよくないし、あまりお金をかけていないようですが、よそは立派な施設があるので、もう少し整備の部分にお金をかけてもらうのも含めてできないかどうか。

委員

ちなみに、友愛の森は県の事業で作ったものだけれども、1番奥と手前とで1.5メートルの落差がある。ソフトボールなどでは使えないので、グラウンド・ゴルフ協会の方々が整備して今の状態までなっています。

座長

以前から施設の使い方に意見が有るようですが。

委員

今でも考えは変わっていないのですが、先程産業課長の方から自然体験旅行推進とありましたけれども、同じような考え方で宿泊型ではなく滞在型に変えると考えた時に、大学の合宿とかあってもいいのではないかと、昨年と一昨年をたまたまうちの旅館に大学の空手部が一週間ずつ合宿してくれました。ちょうど夏休みの9月初めで旅館の暇な時期だったので助かったわけですが、今年はOBが全国にいるものだからその関係もあって回っているようです。2年続けて来たことが不思議なくらいだったのです。空手の合宿は30年に1回来るそうです。そういうことで空手の方はたまたま林業センターをお借りしてできたので良かったのですが、やはり旧温海町には旧町営体育館、グラウンドがないのです。他の地域にはあるのになぜつくらなかったのか不思議でしょうがないのですけれども。そういった施設があれば大学の合宿誘致活動ができるのですけれども、そういった意味で旧温海高校のグラウンドを芝にして、ラグビーのワールドカップもあるわけだから、ラグビーコートとサッカーコートは同じ寸法なので、是非グラウンドだけ県からいただけないのかなと思います。サッカーの場合は天候に関係ないものですから、特に大学とか小中学校を含めた合宿場としては、温海地区は風はあるのですが3月もできるので、春休みに合宿を誘致すると旅館の暇な時期に非常に活用できるのではないかと考えています。例えば、サッカー30チーム呼べば、1チーム30人いれば900人来ますから、非常に大きな大会になります。実は草津温泉では8月の1か月間に全校サッカー大会ということでアンダー13、14、15とずっとやっていて、丸1か月サッカー大会が草津温泉では行われています。すごいです。1万人位集まるのではない

ですか。サッカーコートが最低でも2面は必要ですね。今、友愛の森がフラットであれば芝生もあっていいのかなと思ったのですが、狭いのです。できれば大会をやるには最低2面ほしいので、今考えられるのは旧温海高校のグラウンドと中学校のグラウンドぐらいしかないとは思っているのですが、そういうものが整備されればある程度3月の春休み、夏休み、大学の合宿を誘致すると非常に滞在型でまた違う収入になるんじゃないかなと、またあつみ温泉街も華やかになるのではないかと考えているので、この気持ちは変わらないのですが、なかなかグラウンドはないし体育館はないので、そこから始まってくると何年後になるか分からない状況だと思います。

委員

映画村の構想もなくなり空いているわけだから、市として受けてもらって使えるように温海地域懇談会の名前のもとに要望書を出してはどうか。

委員

雪が少ないので春合宿も呼べるのです。1チームに親もついてくると30人位で、全国から30チーム集めると900人ですから、例えばモンテディオ山形のジュニアチームも参加しますという、プロと一緒に大会ができるキャッチコピーを出してやっていると参加チームも増えるのですよ。そういう事もできるわけです。サッカーは天候も関係ないからいいですよ。雪が降ったってできますから。

委員

小学校も来年3つ空くわけですが、それだって空いた分をどうしてくれるのだと言いたいけれども、地域で考えられるわけがない、あんな大きいもの。

委員

宅老所はどうか。施設に行くまでもない元気な人が時間を決めて行って、教えられる人が歌などを教えたりして、弁当は持つのかそこで取り寄せるのか分かりませんが、みんなで集える場所にしてはどうか。介護認定をもらえず、デイサービスも使えない人がいっぱいいます。

座長

デイサービスを使うにも介護認定が必要なのか。

市 石塚市民福祉  
課長

保険料の負担がどんどん増えているものですからさらに厳しくなると見込まれます。だから今そのように元気なうちにすることで、先ほどおっしゃられた健康寿命の延伸につながっていく部分もあるだろうし、逆にみんなと交流すると元気になるのです。

委員

ある程度の緊張感が必要で、色々な人と一緒にいると状態が良くなって、一人になるとまた状態が悪くなる場合があります。ボケてから施設を利用するとその施設

にはボケた人しか行かないということになるので、元気なうちから施設を利用することで利用しやすい環境が作れると思います。

委員

それをうちの方では協力隊の一人が中心となり公民館でやろうとしています。それで、社会福祉協議会主催で「ぶらりカフェ」を開催したら敬老会より沢山来ました。敬老会はさっき話があった通りあんまり来なくなりました。

市石塚市民福祉  
課長

東大の先生の研究で、いつの時点か分かりませんが過去の研究データをみると前よりも11年若返っているという研究データがあります。歩く距離で測っているらしくて、やはり年齢の割には全体的に若いですね。

委員

元気な高齢者の活動拠点があって、そこにいろいろなメニューがあって、選ぶことができるような場所、市内にもあるようですが、元気な高齢者が集まる場所として運営されているようです。

委員

ミニデイサービスも年々予算が減少しているが、40,000円では厳しい。県の出前講座などもあるが話だけでは集まらない。研修だとか食事会なども併せて健康づくりにつなげていかなければ効果は出ない。

委員

寿海荘を使った木曜クラブという事業があって、負担はあるけれども体操や食事があって、送迎もしてもらえるということで参加者は楽しみにしているようです。

委員

日ごろ地域の中で暮らしていて、生きがいや暮らしやすさ、安心、安全だとか田舎だけれども暮らしやすいとこだという実感があるところだと生活にもゆとりがでてくるだろうから結論的にはそれでいいのではないか。その中に例えば、色んなメニューがあり、地域の中で出かける場所もあるし、顔見知りと会うこともできるというようなことが浸透していけばよいのではないか。

委員

高齢者に対してはいろいろな事業があるが、若い世代に対してはそういったものがなくて、働く場所がなくて子供が高校生になると通学の関係もあって市内に転居することが多く、高齢者だけが残るという家庭も多くあります。地域的にしょうがない面もありますが。

座長

地方創生と言いながら、田舎で一生懸命子供を育てて、働くようになると都会に出て行ってしまうということです。

委員

過疎が一番進んでいるのは仕事だと思う。提案をすべて否定するわけではないけれども、若い人を呼ぶには働く場所をどうするか。例えば、高校を卒業して就職して自分の家から通うとお祝い金5千円を渡しているが、最初は家から通っているが少し経つとアパートを借りて住んでしまい、高齢者だけが残ってしまうという状況にある。地元になんとか奥さんでもいいから働く場所があればいいと思うが。

座長

ざっと見渡しても男子型の企業がない。旅館、農協があるけれども10年間で2,000人もいなくなって、商業的な活動の部分も含めて活力がなくなってきている。そうすると店もなくなる。また10年経つと2,000人いなくなれば今度は旅館なども働く人がいなくなる。大変な時代が来るわけです。そうすればいま言ったような形で男子型の企業的なものが、市としても中心地から離れたところに企業を貼り付けるような策が取れないものか。例えば旧温海高校なんか単純に考えれば市が払い下げを受けて民間の企業に譲れば市から離れるわけだし、会社のものになるわけなので、市がいつまでも留めていると時間がかかってしょうがないので、何とか民間の企業誘致をうまくできないものか。

委員

払い下げをしてもらう際の手順、手続きそのものに制約はありますか。

市総務企画課五十嵐課長補佐

市が払い下げを申請すれば県は払い下げてくれると思います。問題はその後の利用をどうするかということになるので、市としてははっきりとした目途を立てばいいのですが、県から民間に直接やるということは難しいと思われるので、一旦市が払い下げを受けることがいいのだと思いますが、市が払い下げを受けたときにどの程度の維持管理費がかかるか。見た目にはまだ新しいように見えますが30数年経過している建物でもあり、電気系統も一本化されているということなので、その辺の改修にかなりの費用が掛かることが見込まれます。エレベーターのない4階建ての建物ですし、閉校に当たって市からも体育館を使いたいという願いをした経過がありますが、これが校舎とセットでと言われると非常に重いものになってしまいます。体育館だけ貸してほしいという願いもしましたが認められませんでした。

座長

体育館もかなり危険なのですか。

市総務企画課五十嵐課長補佐

体育館については耐震化されていると聞いていますが、校舎については不明です。

市 石塚市民福祉課長 市が無償で払い下げを受けた場合に、すぐ民間に譲渡することは難しいと思います。市が譲渡を受けることには問題ないのですが、一般企業に無償でやるということはできませんし、市が公共的に使うということが条件になると思います。以前保育園の譲渡に際しても10年間の用途指定がありました。

座長 県としても将来的には解体しなければならないと思うが。

市 総務企画課五十嵐課長補佐 市としても地域振興策で活用するというでもらうなどの方法は検討できますが、維持管理費が課題となると思います。

委員 過疎地域自立促進計画の中に入れてもらえばよいのではないか。

委員 この件は大変重要だと思います。温海高校の借用、利用について検討して報告してほしいと思います。

委員 体育館の下はピロティになっていて雨天でも使えるのではないですか。

委員 ピロティには柱が多くあって使いにくいところがあり、それで映画村が撤退したという経過もあります。

委員 温海地域はバスケットボールが有名なので体育館を使って大会や合宿を誘致していただければ旅館にもお客さんが入るのですが。

座長 3番の方にも入っていますが農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか、という部分で、時間が僅かしかありませんけれども農業に関しては先日NHKのテレビで見たのですが、温海かぶに「6004」という乳酸菌が入っており、今櫛引の農協で県とコラボして製品を作ったようです。

市 石塚市民福祉課長 オルニチンではなかったですか。NHKの「さきどり」という全国番組で紹介していました。山大農学部でも研究していました。

座長 以前も山大の先生の研究でポリフェノールが入っているというのがありました。今新たに乳酸菌「6004」が入っていて、それが脅威の力があるということ テレビで放映されていることは素晴らしいことだと思います。乳酸菌をうまく利用して、何かに入れて商品開発が出来ないものか。素晴らしいものなので市のバックアップ体制も取れば頑張れるのではないか。

委員

あつみかぶもロゴマークも作っているいろいろなものを作って、いよいよこれからというところだと思いますが、いろいろなものに手を出さないで、例えば温海の特産としてはこれでいこうという部分で、まだまだ可能性は十分あると思います。やっぱりやり方だと思うし、種の扱いもそうだし、これからまだまだ展開としていろいろなものが予想されます。私もたまたま農業に携わっていますが農業も楽しいと思います。それを拠点にしながら一霞に限らず焼畑というところにこだわりを持っていくという温海のスタイルでいいのではないかと思います。

委員

農業で生活していこうと思うと温海の中ではこれほど容易でない産業はない。暇なときに農業で楽しもうと思えばこれほど楽しいものはない。生活が関わらなければ。そうゆう部分を都会に売っていく、若い人が子供連れで住めるような人を集めてもなかなか容易でないので、ある程度お金持ちのお年寄りを集めるような工夫をしていく、旅館にも泊まらせるような工面をしていく、蓬莱塾でも一生懸命やっているわけですが、この地域に来てもらえるような方策をいろいろ各方面でやってみたら面白いのではないかな。

委員

旅館的にもあつみかぶというのはお客さんも当然知っているのです。ただ問題点といえば冬場が旬なのであまりお客さんのいない時期なのです。春から秋にかけてのお客様が多くなる時期には赤かぶがないものですから、なかなかその辺もブランド化するうえで安定生産プラス通年生産を目標にできないのかなと思います。それができれば非常にいい温海かぶをいつでも食べられます、という形になるので、是非進めていただきたいです。ちょうど10月から2月くらいまででよいところが終わってしまい、旬の時期はあんまりお客様がいらっしやらないのです。

委員

保存方法については冷蔵もあるし、ある程度賞味期限を延ばすというのは可能だと思います。ただしコストがかかるのでその先に行ったときに高めに販売できるか。この辺の人は冬場が旬だと思って、春になれば食べられなくなるので各家庭では捨てるのです。

委員

お客様から赤かぶありますかと聞かれて、今の時期ないのですという朝市に行って探して来たり、どこかで売っていませんかと聞かれますけれども、売っているものは実際中国産を通年販売しているものなので、なかなか推奨しにくいのですが、温海かぶとして売っているのです。

委員 あれは種が温海かぶなのですか。

委員 何も関係ないと思います。庄内観光物産館で通年売っているのですが、とてもじゃないけれども、どこで作っているのだらうという感じです。地元としては。

委員 つまり温海かぶの特徴としては、焼畑というロゴマークと漢字があれば安心して買えるということなので、やはり温海としてはそこをアピールしていかなければ。

委員 旅館としても本物以外は出したくないので、温海かぶのない時期は出していない。

委員 焼畑ではないが春に種をまいて夏に収穫している人もいます。味は本物よりは劣ると思います。

委員 かぶは野沢菜と同じ西洋型作物なので、葉を使うとかそのようなことも研究するとういと思います。野沢温泉のお土産に野沢菜の種をもらってきたのですが、一霞の方からは交配してしまうので絶対に持ってくるなと言われました。

委員 一番問題となっているのは古来から持ってきた温海かぶの種のDNA鑑定が必要で、これが昔ながらの種だという鑑定をしてやらないとだめなのです。今はもう氾濫している状態なので、ここからスタートしないとだめなのです。それだとまち起こしができます。

委員 新道の駅をいかに魅力的にするかということが大変なことだと思う。ラーメン久太さんみたいにみんな集まってくるわけですから、どれだけの魅力的なものを作れるか。辨天ニジマスはどこへ行ったのか。

座長 道の駅ができることによって漁協とタイアップして魚を並べて、例えば高速道路を下りてきて家に帰る人が魚を購入し無料で捌いて、家に持っていくとすぐに食べられる状態にしてやるとか、そういうものを売っていかないと、今の「しゃりん」のようなものを並べてもダメだと思います。だから今漁港が近いわけだからそういう鮮魚を売っていく。そしてなおかつレストラン的な部分においては酒田の海鮮市場のように刺身定食や海鮮丼などを提供する。そうすることによってそこが生きてくるような感じがします。

委員

道の駅だけでしょうと思わないで、道の駅から逆に鼠ヶ関港に下りてもらおう。新潟県の寺泊は関東から日帰りで魚を買って帰るくらいになっているわけだから、寺泊のような感覚で鼠ヶ関を改革できれば新鮮な魚を求めてインターチェンジを下りてくれる方、道の駅によるだけではなくそこから案内して鮮魚市場に行く。そして泊りはあつみ温泉に案内するといった形の道の駅であってほしいと思います。

極端に言えば無人であってもタッチパネルが置いてあってそれで案内してもいいし、そういう感じでトイレ休憩をしながら鶴岡の案内をそこでしてしまう。何度も話していますが、昼食を提供するとなると鶴岡では観光物産館が300人くらいはいるのですがその他はないのです。ほとんど昼食というとそこしかなくて、これはもったいないと思うのです。是非鮮魚市場もできるのであればその辺に200~300人の昼食ができて、下で買った魚を上で調理して食べるとかそういう感じでもいいですし、鮮魚市場買い物ツアー昼食付きでというようなそういう市場的なものがあれば。酒田には海鮮市場があります。鶴岡は観光物産館しかないわけですがけれども、鼠ヶ関にもう1軒鮮魚市場的なところがほしいと思います。昼食もできるような施設もあればいいと思います。それを案内する道の駅であればいいと思います。

委員

寺泊は相乗効果なのです。魚に特化して、新鮮な魚もあるし、食べるものもあるということでお客さんがはいつていると思います。

委員

高速の黒崎から北は食事ができる場所がないし、日沿道がつながった場合には何を狙っていくのか考えていかなければならない。

委員

寒河江サービスエリアのような形も悪くはない。

委員

無料区間はサービスエリアという名前はつかないそうです。有料だからサービスエリアで、無料区間は道の駅だそうです。

座長

この部分はもう少しできるまで時間がかかるわけですから、先ほど出された意見を含めて是非これを生かしてほしいと思います。そしてそれが観光の産業地になる部分を含めて観光強化していくために、あつみ温泉に入っただいて、ゆっくり泊っていただければいいと思います。

委員

産業が増えてくると若い人たちに活気が出ますし、子供が生まれれば別の意味

で賑わいが出ますし、施設はやっぱり有効に活用していかないといけないと思います。

委員

地域おこし協力隊の若い人が毎日来ていただけるだけでも違って来る。地域を回ってかぶを作ったり、少し違った動きが出てくるのではないかと考えています。3年間の任期ですが、その間に生業を見つけるということでやっています。

座長

まだ空き家とかいろいろな話をしなければならない部分がいっぱいあるわけですが、時間になりましたので、他になければ終了したいと思います。

市総務企画課五十嵐課長補佐

色々貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今後予算要求も始まって来るわけですし、色々な計画作りもあるわけですので是非可能な限り反映させていただきたいと思います。今日の内容については次11月にまた予定しておりますので、第1分散会もあるわけですからその結果をいろいろ発表しながら再度煮詰めていっていただければ大変ありがたいと思います。今日はこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。